



イ話が聞かれるクラスに

考査の結果が返却され始めているようだが結果やいかに？ 昨日も政経のM先生と印刷室で立ち話をしたのだが、「35Rはそれなりにやっているんだけど、点数にしてしまうとちょっと厳しい感じかな」とのこと。先週の金曜日には、必選地理のN先生と印刷室で立ち話をしたのだが、その時も「35Rは成績上位者に入ってこないねえ～」とのことであった。やれやれ…。(どうも印刷室で立ち話をするとロクなことがないな…)

まあしかし、スタート時点がこういう状況だということは、これからきっとスゴく伸びるといことなのだろうから、担任としては期待することにしよう。君たちも明るい未来が待っていると考えて努力を継続することである…って、あまり慰めになっていないか。

ただ、学級日誌などを見ていると、授業や休み時間の様子などが「去年までとは何か違う」という印象を持っている諸君が多いこともわかる。日比谷生は、毎年授業を通して力を伸ばし、最終的にはE判定を覆した結果をゲットしていく。だから、日常の授業の雰囲気は大切に、それが上記のような印象に変化しているということは、やっぱりイイことなのである。これから行事などもあって浮かれがちになるが、そういう時こそしっかりとケジメをつけて、一時間一時間の授業を大切にしよう。そして、授業担当の先生方ともイイ関係を築いて、その先生方の持っていらっしゃる最大限の力を発揮していただくような、やる気を感じさせる授業の雰囲気作りに努めたいものである。

*

立ち話といえば、月曜日と金曜日の朝、遅

刻撲滅！を目指して立ち番をしている時に、よく担任団のW先生やK先生・S先生などと四方山話をしているのだが、当然のことながら四方山話とはいっても、自分たちの学年の生徒たち、つまり君たちの成績のことや生活態度のことが話題の中心である。そういう時は固有名詞で話をするわけだが、35Rの諸君が話題に登場することは最近あまりなくなってきた。去年は、「遅刻が多い」「世界史の結果が思わしくない」「課題を提出しない」といったことで固有名詞がずいぶん話題に上っていたから、その頃と比較すると、少しずつでも改善傾向にあるということなのだろうか(…というよりも、「遅刻」が「大幅な遅刻」になって、我らの網に引っかからないだけということも考えられるが…)。

逆に、「●●は最近一所懸命やっている」みたいな話を(ごくたまにはあるが…笑)聞くようになってきた。「授業中寝ていない(←当たり前か!)」とか「自習室で勉強している姿をよく見かける」とかである。そういう話が多く聞かれるようになると、それに伴って成績も向上してくるものである。

前号にも書いたが、今までサボっていたなと感じている人は、そう簡単に勉強の成果が現れることはないだろう。だからこそ、今が頑張り時なのである。勉強法に迷うこともあるに違いない。しかし、安易に方向転換するのではなく、自分がやらなければならないことと、実際にこなしていることを見比べて、何が足りないのか、何が余計なのか、素直に反省することだ。迷ったら授業を大切にする。これが現役生の鉄則であることも忘れずに。